実践のまとめ（第４学年　国語科）

令和３年 10 月 18 日第５校時
指導者　見附市立名木野小学校
教諭　髙橋　梨絵

１　研究テーマ

自分の考えを広げたり深めたりする児童の育成

２　研究テーマについて

（１）テーマ設定の意図

本学級の子どもたちは、学習問題に対して真剣に取り組み、自分の考えをノートに書いたり友達に伝えたりすることができる。一方で、間違うことに憶病になり、発言することに消極的な児童が少なくない。話合いにおいて、発言することができるかどうかを尋ねたところクラスの半数以上が「発言できない」と答えた。理由として、「恥ずかしい」「否定されたら嫌」「反応がないことがあるから」と答えた。このような現状を鑑みて、多様な考えを受け止め、聞き方のスキルを身に付けさせながら、考えを伝え合える学習形態の工夫が必要だと考えた。また、自他の考えを比べて考えたり、違いを捉えて互いに学び合おうとしたりする姿にも弱さが見られる。そこで、児童が友達の考えを聞きたい！もっと知りたい！という思いをもち、互いに考えを深め、学び合える姿を目指して実践することにした。

（２）研究テーマに迫るために

①　考えを交流する学習形態の工夫

ワークシートに自分の考えを書いた後、考えを伝え合う活動をする。友達の意見を聞いて、自分の考えを確かなものにしたり、読みの視点を広げたりできるようにする。

②　叙述を基に根拠を視覚的に捉えるための支援

登場人物の気持ちを読み取った叙述に印を付けさせる。さらに、教科書を拡大したものを掲示し、同じように印を付けることで、どの児童も叙述から根拠を捉えられるようにする。交流時にも使用する。

③　自他の考えを比べて振り返る場の設定

伝え合う活動を通して、「友達の考えの根拠が分かったか。」「自分の考えはどのように変容したか。」２つの視点で活動を振り返る場を設定することにより、一人一人が考えを広げたり深めたりできるようにする。

（３）研究テーマに関わる評価

伝え合う学習で、叙述を基に考えたことを交流し、自分の考えを深めたり、友達の考えを取り入れられたりしたかどうか評価する。また、児童のノートから自分の考えのよさを再認識している記述や友達のよさを理解し、考えを深めている記述を確かめる。

３　単元と指導計画

（１）単元名　「読んで考えたことを伝えよう」（新しい国語下　東京書籍）

（２）単元の目標

・中心人物とほかの人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことができる。

・友達と考えを発表し合うことを通して、一人一人の感じ方が違うことを理解し、考えを比べることができる。

・各場面を関係付けながら、叙述を基に人物の気持ちの変化を読み取ることができる。

（３）単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	叙述から人物の気持ちを読み取り、ワークシートにまとめることができる。（C（１）イ）	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（C（１）オ） 場面の様子や移り変わり、登場人物の言動や性格、気持ちの変化について、叙述を基に想像しながら読むことができる。（C（１）エ）	物語に関心をもち、読んでいる。 自分の感想や考えをもち、伝えようとしている。

（４）単元の指導計画と評価計画（全１２時間、本時　９/１２時間）

次 （時数）	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 （2）	本文を読み、印象に残ったところや不思議に思ったところを交流する。 学習課題を確認する。	◎どんなことを感じたか伝え合おう。	態度 物語に興味をもち、読んでいる。【ノート】
2 （9）	全文を読み、分からない言葉を調べたり、挿絵から想像したりする。	◎場面や人物を確認しよう。	知識・技能 人物や、場面分けが分かる。【ノート】
	第１場面を読み、ごんの行動からその時のごんの気持ちを考える。	◎兵十にいたずらをしたごんは、どんな気持ちか。	思考・判断・表現 ごんの行動や心内語などから、気持ちを考えている。【挿絵プリント】
	第２場面を読み、ごんの行動や様子から、ごんの気持ちの変化や変化した理由を考える。	◎なぜごんは後悔しているのか。	思考・判断・表現 ごんの気持ちの変化を読み取っている。【挿絵プリント】
	第３場面を読み、ごんのつぐないの気持ちがどのような行動に表れているのかを考える。	◎兵十につぐないをするごんは、どんな気持ちなのか。	思考・判断・表現 ごんの気持ちを読み取っている。【挿絵プリント】
	第４場面を読み、兵十と加助の後をついて行ったごんの気持ちを考える。	◎兵十と加助の後をつけるごんは、どんな気持ちなのか。	思考・判断・表現 ごんの気持ちを読み取っている。【挿絵プリント】
	第５場面を読み、加助の言葉によってごんの気持ちがどのように変わったか考える。	◎加助の言葉を聞いてごんはどんな気持ちになったのか。	思考・判断・表現 ごんの兵十への強い気持ちを読み取っている。【挿絵プリント】
	第６場面を読み、ごんがどんな気持ちだったか想像して、文章にまとめる。**（本時）**	◎兵十に撃たれたごんはどんな気持ちか。	思考・判断・表現 ごんの気持ちを読み取っている。【挿絵プリント】

	第６場面を読み、兵十がどんな気持ちだったか想像して、文章にまとめる。	◎ごんを撃った兵十はどんな気持ちか。	思考・判断・表現 兵十の気持ちを読み取っている。【挿絵プリント】
	前時に書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。	◎考えを比べて、感想を伝え合おう。	知識・理解 互いの感じ方や考え方の違いに気付くことができる。【発言・ノート】
３ （１）	単元の学習を振り返る。	◎友達と感想を伝え合うことで分かったことや気付いたことは何か考えよう。	思考・判断・表現 これまでの挿絵プリントを振り返り、自分の考えをまとめている。【ノート】

４　単元と児童

（１）単元について

教材の特性を踏まえ、本単元では学習指導要領の以下の事項に重点を置き、指導する。

第３学年及び第４学年　Ｃ　読むこと

（１）読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

オ　文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。

カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

本単元の第３次では、これまでの登場人物の気持ちを振り返り、段落相互の登場人物の気持ちの変化を捉える学習を行う。友達との考えの違いに気付き、読みの視点の広がりを期待したい。そのために、第２次では、段落ごとに登場人物の気持ちを叙述から読み取り、考えを伝え合う活動を行う。伝え合う活動を、毎時間繰り返し行うことを通して、一人一人の考えの違いに気付けるようにする。少人数での活動後、クラス全体でも考えを伝え合う場を設けることで考えのよさが広まる授業づくりを目指していく。

（２）児童について（男子１０名　女子１２名　計２２名）

これまでの物語文の学習において、登場人物の気持ちの変化や、変化したきっかけを考える学習を行ってきた。

しかし、場面の移り変わりや他の人物との関わりで気持ちが変化することを読み取る力は、未だ十分ではない。また、場面の様子や人物の心情を大まかに把握できるが、感覚で読んでしまい、問われたことに直感で答える児童も少なくない。このことから、文章を根拠にして内容を読み取る力が弱いと考える。そこで、本単元では場面の移り変わりに注意しながら、人物の様子、気持ちの変化などについて、叙述を基にして読み取る力を身に付けさせたい。ペアやグループ活動の中で、互いに考えを伝え合うことを通して叙述を基に根拠を明らかにしながら、考えを広げたり深めたりできるようにしていく。

５　本時の展開

（１） ねらい

兵十の問いかけにうなずくごんの気持ちを、教科書の叙述を示しながら、根拠を基に相手に考えを伝えたり、考えを聞いたりすることができる。

（２）展開の構想

本時までに、各場面でごんが兵十に伝えたかったことを想像してワークシートの吹き出しに書く活動をし、つぐないを伝えようとしてきたごんの思いを読み取らせる。見付けた根拠を伝え合うことを通して、自他の考えを比べて考えたり、考えを見直したりする。さらに、多様な考えを伝え合うことで、読みの視点を広げたり、考えを深めたりさせたい。

本時のはじめでは、これまでどれほど兵十に思いを寄せて、つぐないをしてきたのかを掲示物等から振り返り、兵十との気持ちのずれを再確認する。その後第６場面のごんの気持ちを読み取る活動につなげる。その際、自分の考えが基になった叙述に線を引かせ、交流時に比べられるようにする。特に、つぐないに気付いてもらえたが撃たれたという結末は、これまでのごんの気持ちや行動を考えると、無念極まりない。最後の場面の気持ちを読み取る時間を十分とりたい。

（３）展開

時間	学習活動	教師の働き掛け 予想させる児童の反応	□評価　○支援 ◇留意点
５分	1 ６場面を音読する。	６場面を音読しましょう。 C 兵十がごんを打ってしまう。 C ごんがかわいそう。	○本時で学習する場面を確認する。
３０分	2 叙述を基にごんの気持ちを考える。 引き合わないと思った次の日も兵十の家に行った理由を考える。 3 ごんの挿絵に吹き出しを書かせ、ごんの気持ちを書く。 4 考えを伝え合う。	ごんはなぜまた家に来たのでしょう。 C 兵十に償いたい。 C 思いを伝えたい？ **◎うなずいたごんは兵十にどんな気持ちを伝えたかったのか。** 兵十に撃たれたごんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 C 気付いてくれたみたいでうれしい。 C 本当は仲良くしたかったな。 ペアになって、理由を伝え合いましょう。	○学習場面を音読し、ごんの気持ちが分かる描写を黒板に整理し、気持ちを捉えやすくする。（心内語や独り言、言動） ◇ごんの様子が書かれている叙述が少ないので、分かりそうなところを全体で出し合う。 「こっそり中へ」 兵十の「ようし。」 □教科書の叙述を基に考えを伝え合っている。

１０分	5 ごんの気持ちをまとめる。 6 ノートにふり返りを書く	ごんはどんな気持ちだったでしょうか。 C 撃たれたけど、今まで気付いてもらえなかったから、うれしい。 C つぐないをしてきたのが自分だと分かってもらえてよかった。 C うたないでほしかった。 C 最後に気付いてもらえて、やっぱりごんはうれしかったと思う。	○①友達の考えの根拠を理解できたか。 ②自分の考えの変容の２つの視点で活動動をり返る。

（４）評価

・叙述から想像して読み、ごんの気持ちを書くことができる。（書くこと）

・叙述を基に、自分が考えたごんの気持ちを伝え合うことができる。（読むこと）

・一人一人の考えが違うことを理解し、自分の考えと友達の考えを比べて、考えを広げたり深めたりすることができる。（読むこと）

６　実践を振り返って

（１） 授業の実際

本単元では、ごんの気持ちに焦点を当て、場面ごとの気持ちを考えてきた。本時前の授業では、置いてあったくりが、神様のしわざではないかと、加助に話しかけられる兵十に対して児童は、ごんが、自分がしたことなのに、気付いてもらえない悲しい気持ちや納得いかない気持ちを考えていた。一方で、「罪は罪だからしっかりつぐなおう。」「もっとあげれば気付いてくれるはず。」と、ごんが気付いてもらいたいという考えをもっている児童もおり、全体で共有し、兵十に対するつぐないの思いをもち続けているごんの健気な気持ちを確認した。

本時の導入で、前時の学習を振り返ったところ、本時の初めに何を考えたいのか子どもたちの中ではっきりしており、ごんの気持ちをみんなで考えたいという課題をすぐに提示することができていた。

学習プリントに考えを書く活動では、まず自分の考えを書き、その後、数人で考えを伝え合うという流れで活動を行った。最後に全体で考えを伝え合う活動を行い、ごんの気持ちをまとめた。子どもたちの考えで多かったのは、「悪いことをしてごめんね。」「気付いてくれてありがとう。」など兵十に対する謝罪や感謝の気持ちだった。全体で考えを共有した際に、謝罪の気持ちを考えた児童が、自分とは異なる友達の考えをクラスに勧める発言をし、「なんで撃つの！」という少数派の意見を考える機会をもつことができた。「そんな考え思いつかなかった！」「たしかにそうだ。」など反応する児童がいた。

（２）研究テーマに関わって

① 考えを交流する学習形態の工夫

自分が考えを聞きたい人のところに行き、互いの考えを伝え合う方法で交流活動を行った。複数の人と考えを交流する姿が見られた。

全体で考えた際には、自分と違う考えを紹介する児童もいた。自分の考えと比べて、考えを深めることができた。

② 叙述を基に根拠を視覚的に捉えるための支援

第１場面から、考えの根拠となった教科書の叙述に線を引く活動を行ってきた。場面ごとに繰り返し線を引くことで、文に線を引くことの習慣が付き、どの児童も根拠となる文から考えを導き出すことができたと言える。交流活動では、考えだけでなく根拠となった文を教科書を見ながら比べることができたので、線を引いた部分の場所を比べることができた。また、線の部分が同じでも、違う考えになることがあるという新しい発見も生まれた。

③ 自他の考えを比べて振り返る場の設定

伝え合う学習で叙述を基に考えたことを交流し、自分の考えを深めたり、友達の考えを取り入れられたりしたかどうか評価する。（見取り、ノートの振り返り） ⇒２２人中２１人のノートの振り返りに、考えを深めていた記述があった。

見取りから、友達の考えを聞いて、比べて考えたり、受け入れたりすることはすべての児童ができていたことが分かった。ノートの振り返りには、９割の児童が比べたり深めたりする記述があった。「〇〇さんの意見がいいと思った。」「自分が思いつかない意見を聞けた。」などの振り返りだった。また、「友達の考えを聞いて、自分の考えが変わった。」「友達のいいなと思った考えを付け足した。」など、自分の意見に友達の意見を付け足したという振り返りの記述も見られた。

以下は、児童の振り返りの一部である。

・「友達の考えを聞いて、いいなと思いました。わたしの考えが１番いい！」 ・「友達の考えがいいと思ったので、自分の考えを少し友達の考えに似せました。」

研究テーマに関わる評価

自分の考えのよさを再認識している記述や、友達のよさを理解し、考えを深めている。（ノートの振り返り） ⇒２２人中１９人のノートの振り返りに、考えを深めていた記述があった。

ノートの振り返りには、友達の考えに対して、自分では気付かなかったと驚く記述や、友達の考えを称賛する記述などが多く見られた。評価に達しなかった３名は、自他の考えを比べることはできていた。しかし、考えを伝え合い、自分の考えをどう感じたのか、友達の考えをどう捉えたのかという振り返りまでには至らなかった。どのように振り返りを記述させるかを指導する必要があったといえる。

（３）今後の課題

考えの根拠となった教科書の文に線を引くことで、感覚で考えずに叙述から考えを導き出すことができたと考える。手立てとして有効であった。本時では、どの叙述からどんな考えをもったのかだけに重点を置いてしまったので、今後は、同じ叙述でも、さまざまな考えになるという新たな発見をもとに、１つの叙述を取り上げた際に、児童が複数の考えを挙げら

れるようにしたい。

本単元では、叙述を根拠として読み取る力をつけることができた。今後の単元でも、身に付けた力を活用させていきたい。物語文の場合は、根拠となった叙述に線を引くこと、説明文の場合は、段落相互の関係を考えて読むことなどが考えられる。身に付けた力を活用していきながら、徐々にステップアップして、他の力も付けさせたい。

今回の授業では、児童のノートの振り返りを中心に、考えを広げたり深めたりできたかを評価した。自分の考えについてと友達の考えについての２つの視点で、振り返りをさせた。自他の考えを比べることができても、自分の考えを深めることができたかは、この振り返りで見取るのは、難しく感じた。児童も、振り返りを書きづらかったのではないかと考える。自分の考えを広げたり深めたりするための手段として、友達と関わるので、交流活動後の自分の考えについての振り返りができるような、振り返りの指導の仕方を考える必要がある。

児童の考えの変容の有無を期待しすぎているところがあった。「考えを広げる」ということは、必ずしも自分の考えを変える必要はなく、友達の考えを受け入れ、さらに自分の考えを確かなものにする再認識できたか、見直すことができたかということが重要であると学んだ。児童は、授業の中で、さまざまな考えを受け入れ、自分の考えと比べることを通して、考えを固めていた。改めて自分の考えのよさに気付いたり、友達の考えのよさに気付いたりし、考えを深めることの大切さに気付かされた。そのためにも引き続き、叙述を根拠として考えることや、理由を明らかにして考えをもつことを心がけさせていきたい。